

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2771601941
法人名	株式会社イワノ
事業所名	グループホームきさく苑吹田
訪問調査日	平成 21 年 2 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 2 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2771801941
法人名	株式会社イワノ
事業所名	グループホームきさく苑吹田
所在地	大阪府吹田市内本町1丁目17番17号 (電話) 06-6319-6310

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年2月3日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(21年 1月 5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	6人, 非常勤 7 人, 常勤換算 9.1 人

(2)建物概要

建物構造	4階建 鉄筋造り
	4 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有3年	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(1 月 5 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1		名	要介護2	5	名	
要介護3	2	名	要介護4	1	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	85.1 歳	最低	73 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会吹田病院 秋本クリニック 山本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム開設6年目を迎え、まわりの環境に溶け込んだ建物で、外観は大きく見える。一階部分がホールで2～3階部分が居室という構造であるが職員の工夫と努力で、暖かい空間になって利用者が明るく、ゆったり過ごしていた。職員は地域の中に溶け込めるよう努力をし、今ではボランティアの受け入れもなされ、自治会からの協力も得られるようになっていく。地域との更なる交流が深まるよう、引き続き取り組むとしている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①地域密着型の理念に変える、②運営推進会議の開催、③栄養バランスの見直し改善点であったが、職員会議などで積極的に検討して、改善に取り組んだ。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、管理者と一部の職員とで相談して記入したが、評価をサービスの質の向上に積極的に役立てたいと取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は初めて12月に開かれた。内容は、事業所の概要説明、行事、生活内容の説明、家族との質疑応答、介護相談員のホームでの感想、包括支援センター職員、自治会長の意見交換があった。次回は4月に開く予定で、管理者は意欲的に討議内容を計画している。今回のサービス評価(自己評価・外部評価)による改善課題を討議する予定である。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月一回、利用者の暮らしぶりや健康状態を文書にて家族に報告している。家族会や運営推進会議、家族の来所時には要望、意見など聞き、職員ミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の敬老会、お祭、お寺のお茶会などに参加している。小学校の運動会にも出かけている。運営推進会議も開かれるようになり、更に地域との連携が増えることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(LIVEその人らしさを大切に・LOVE一人ひとりを思いやり・LIFE楽しく居心地のいい暮らし)を理念に掲げ地域に溶け込んだ事業運営に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスをとり入れ作り変えられたが、地域の中で暮らして行くことを支援することを理念の柱に置かれるように望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に着きやすい玄関に掲示し、また職員とのミーティングや個人面談で話し合い、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の敬老会、お祭、お寺のお茶会などに参加したり、小学校の運動会を見学するなど、出来る限り機会を見つけ、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員全員で話し合い、運営推進会議でも取り上げ、サービスの向上につなげたいと努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、包括支援センター職員、他事業者、自治会長、介護相談員、家族、職員が出席し、意見交換、サービスの向上につながる議題で話し合われている。次は4月に開催予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員との集り(2ヵ月に一回)に参加したり、市役所の担当窓口を訪ね情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の生活状態、身体状態の報告書を毎月一回家族に郵送すると共に、家族の来所時には直接話している。又職員の異動も来所時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、来所時などで出た家族の意見・苦情は、職員の個人面談、職員ミーティングで検討し運営に活かし、その結果は家族にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見・希望は聞きいれ、離職を最小限に止める努力をし、利用者への不安を招かないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来る限り参加し、その知識はミーティングで伝達し、全員で研修を生かす工夫と取り組みが見られる。また管理者が学んで欲しい内容は、職員の個人懇談で伝え、職員の技術・知識の修得に意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険事業者連絡会に加入し、他のグループホームを見学、意見交換を行なっている。今年は一歩進んで合同で展示会をし、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に利用者宅を訪問、本人・家族から、利用者の生活歴や生活状態を把握し、利用者が安心と納得のうえで、サービスを利用されるよう進めている。体験入所も視野にいれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの生活は、これまでの生活の延長と捉え、家族のように過ごすことから、お互いに学んだり、支えあう関係が出来ていくよう支援されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思い・希望はよく聞き取り、家族とも相談し、これまでの生い立ちなどの情報も持ち寄り、職員全員で話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、利用者・家族の状況、意向を確認、職員の気づきも話し合い、一人ひとりに沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとにアセスメントを行い、見直しをしている。状態に変化が見られたときは、本人、家族、職員、協力医院などと相談し、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況や希望に可能な限り柔軟に対応し、外出支援、病院受診の付き添いなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回 協力病院の往診を受けている。利用者の希望でかかりつけ医の往診を受ける事も支援している。夜間の対応は適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時には、重度化した場合の対応について説明している。終末期のあり方については、必要に応じて、本人・家族の意向に添えるよう説明し、同意書に家族の署名・捺印をもらい、かかりつけ医とも相談し取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護についてのマニュアルを管理者が作成し、職員の個人面談、ミーティングで話し合い、日々の対応でプライバシーを損ねないように取り組んでいる。個人記録は事務所の書棚に保管し、個人情報の取扱いに気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは決まってるが、利用者のペースや希望にあわせた暮らしの支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて、職員と共に調理、配善、片付け、食器拭きなど行なっている。また食事は職員と共に摂り楽しんでいる。お誕生日には、尾頭付きの鯛でお祝いしたり、屋台の日(たこ焼き、焼き蕎麦など)を設けたり、食事を楽しまるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目安としているが、希望があれば、いつでも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の家事手伝い、月2回のボランティアでの書道教室、手芸教室、音楽療法などが実施され、役割をもつ、楽しみごと、気晴らしなどの支援がなされ、一人ひとりの活力を引き出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、近くのスーパーへの買い物、散歩、玄関先での日光浴、時には外食に出かける支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の2階、3階が居室でホーム内は開放し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が防火責任者で、災害連絡網も作られ、消防訓練は、消防署の立会いで年一回行なわれている。夜間想定訓練、地域の協力はこれから、働きかけたい。	○	建物の構造上、2、3階からの非難を考えると、消防署や近隣の協力が必要。運営推進会議でも取り上げ、働きかけていく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分量、食事摂取量は記録している。利用者の状態に応じ、キザミ食、ペースト食、水分にとろみをつけるなど工夫されている。また栄養バランスが保てるよう献立は考えられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、限られたスペースに畳ごさを敷き居間とし、季節感を感じる飾り物が置かれたり、壁に楽しい飾り付けがなされたりして、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族が相談の上、使い慣れた家具や位牌、好みの飾り物、写真など持ち込まれ、居心地よく暮らせるよう工夫されている。		